

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171400049		
法人名	社会福祉法人唐津福祉会		
事業所名	浜玉荘グループホーム		
所在地	佐賀県唐津市浜玉町東山田2399番地		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年2月24日	外部評価確定日	令和5年4月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームの理念「思いやり・支えあい・笑顔」に基づき入居者、職員が家族であるという意識を持ち理念の実践に取り組んでいます。今まで暮らしてこられた延長にグループホームがあるように共同生活ながらも、入居者の方のその時々々のニーズを察知し、笑顔を引き出せる支援に努め、研修等を通して介護職としての専門性を高められるよう努力しています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に囲まれた広い敷地には桜並木や紫陽花の土手があり、季節毎の花見は居ながらにして楽しめる。程よい坂道の散歩は体力維持にも役立っている。法人の特別養護老人ホームから廊下続きのユニットと、別棟で独立して建つユニットがあり、離れている2ユニットの均衡を保つため職員一名を入れ替えた試みもある。全てを統一するのではなく、平準化した方が良い事は修正しながらケアの向上へと繋いでいる。また職員が自由に発言をし、それに耳を傾ける上司がいることで、延いては職員同士の連携の良さや家族的な雰囲気を生んでいる。歳を重ねる毎に体力の低下は否めないが、利用者の出来る事を大切にしながら試行錯誤を続けている事業所である。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやり・支え合い・笑顔」を理念としており、よく見える所に掲示し、入居者の笑顔を引き出せるように取り組んでいる。	「思いやり・支え合い・笑顔」を理念としており、よく見える所に掲示し、入居者、職員が家族であるという意識を持ち理念の実践に取り組んでいる。	これまではユニット毎に掲げていたが、常に立ち戻る基本や目指す方向は同じであるため、今年度からひとつに統一している。目に付く場所への掲示で意識付けも図っている。利用者が出来る事と職員のちょっとした手助けを併せてきた経験があり、「思いやり」と「支え合い」の先は「笑顔」に繋がるという信念もある。日々のケアの中に活かされ浸透しているのが窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出自粛、外部との接触も制限している為、現在は地域との交流が行えていない。	以前は浜崎祇園、桜まつり、施設全体での夏祭りなどに参加していたが、コロナ禍で外出自粛、外部との接触も制限している為、現在は地域との交流が行えていない。	コロナ禍前にはあった催し物や、その際の交流も含めて殆どが自粛中である。報道では、今春のマスク着用緩和や5類移行などが流れているが、コロナ感染症が終息する訳ではない。高齢者が暮らす施設としてどう対処していくべきか模索も続けている。事業所ではこれまで通り、地元の職員や運営推進会議、また法人母体を通して地域の情報を得ながら繋がりを保ち、基盤の維持に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会時の会話の中で、認知症の人の理解や支援の方法を助言したりしている。	面会時の会話の中で、認知症の人の理解や支援の方法を助言したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、現状報告を行っている。会議録を作成し全職員に周知し、意見をサービスの向上に反映させている。	2か月に1回開催しており、現状報告を行っている。会議録を作成し全職員に周知し、意見をサービスの向上に反映させている。	今年度6回開催のうち4回は集合してもらい対面での会議である。概ね一時間を要し、家族は参加可能な方をお願いしている。資料からは、事業所からの報告だけではなく双方向な意見交換の場となっているのが窺える。事故報告から身体拘束へと話が及び、様々な規則・制約の中でケアに励む姿勢には驚きと敬意も示されている。また職員の勉強会からメンバーに役立ちそうな内容があれば時間を取って伝えている。メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もみられ、自己評価では、この会議を通して地域との繋がりが深まりが少しずつ増えていると答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談がある時には担当者に連絡をし、その都度適切な回答を貰い協力関係が得られている。	質問や相談がある時には担当者に連絡をし、その都度適切な回答を貰い協力関係が得られている。	大きな法人であり、内部で解決できるだけの人材やスキルもあるが、行政側との関係は大切にしている。問い合わせや相談事があれば電話を掛け、内容によっては直接出向くこともある。助言など実直に対応してもらえる関係を築いている。また介護相談員からは、多くの事業所で「外の空気が吸いたい」等が話されていると紹介され、事業所では他所の話ではないと受け止めケアに活かしている。今後も利用者と事業所の橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の禁止を理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会を行う事で意識向上に努めている。	職員は身体拘束の禁止を理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会を行う事で意識向上に努めている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解しており、現在その実施例はない。2ユニット共に出入口の施錠はなく、職員には人数を数えたり所在確認の習慣もあって、安全で自由な暮らしが支援されている。仮に不適切な場面があれば、まず本人に理由を尋ね、考えさせ、ケースによっては全体の事として問題提起するとしている。また年2回、法人が行う不適切ケアの自己チェックでは、部署ごとに集計・公表され、他部署の意識も参考としながら職員会議で共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会に参加し、職員は理解できている。職員による虐待が発生しないよう不適切なケアの自己チェックを定期的に行っている。	高齢者虐待についての勉強会に参加し、職員は理解できている。職員による虐待が発生しないよう不適切なケアの自己チェックを定期的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行っている。現在は日常生活自立支援事業(安心サポート)の利用者が1名おられる。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行っている。現在は必要性のある入居者は居られず、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心掛け、不安や疑問点を聞く機会も設けており、十分に理解・納得して頂けるよう配慮している。	わかりやすい説明を心掛け、不安や疑問点を聞く機会も設けており、十分に理解・納得して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者の意見に耳を傾ける様にしている。家族に対しても面会時やサービス担当者会議時に意見や要望を聞く様に心がけており、運営に反映させている。月1回介護相談員の来荘もある。	職員は常に利用者の意見に耳を傾ける様にしている。家族に対しても面会時やサービス担当者会議時に意見や要望を聞く様に心がけており、運営に反映させている。月1回介護相談員の来荘もある。	入居時に「家族も支援チームの一員」であると説き、オムツ類などは持参をお願いしている。届けられた品物は職員が確認するが、安全確保のためにも必要な作業である。他に受診の付き添いもあり、コロナ禍ながら家族と会話する機会はある。毎月の請求書発送時にはスナップ写真を同封したり、来年度からは隔月発行のホーム便りも検討している。訪れる家族の体調面を気遣うなど普段から話しやすい雰囲気作りにも努めている。最近の意見では気軽な外出の希望があり、職員も想いは同じながら、それには未だ応えられない事、周辺への散歩や外気浴で気分転換を図っている事などを伝えており、きちんと向き合う姿勢が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月の会議にて職員より意見や要望を聞く機会を設けている。また現場でも、職員の意見を聞きやすい環境づくりに努めている。	代表者や管理者は毎月の会議にて職員より意見や要望を聞く機会を設けている。また現場でも、職員の意見を聞きやすい環境づくりに努めている。	毎月の職員会議は60～90分を要し、2ユニット合同と分かれるコーナーとがあり、休みの職員も出席している。カンファレンスや勉強会、連絡ノートに記された検討してほしい事などが諮られる。日頃から発言も自由な職場環境であり、現場の声は法人上席にも届いている。また2年前に異動してきた管理者は、働きやすい職場となるよう、まず定時での帰宅を促し、何でも話してほしいと職員とのコミュニケーションにも努めている。離れている2ユニットの均衡を保つため職員一名を入れ替えた試みでは、ユニット毎の違いを再確認し、平準化した方が良い事は修正しながらケアの向上へと繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況・悩み・疑問等を把握できるように努めている。給与に関しては、唐津福祉会に類する他の法人の水準と照らし合わせ条件整備に努めている。	代表者は、職員の勤務状況・悩み・疑問等を把握できるように努めている。給与に関しては、唐津福祉会に類する他の法人の水準と照らし合わせ条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人一人のケアの実際と力量を把握するよう努めている。職員は施設全体の勉強会に出来るだけ参加し、コロナ禍という事もありリモートでの参加で法人外での研修に参加している。また認知症実践者研修の受講終了者が数名おり、現場反映に努めている。	代表者は管理者や職員一人一人のケアの実際と力量を把握するよう努めている。職員は施設全体の勉強会に出来るだけ参加し、コロナ禍という事もありリモートでの参加で法人外での研修に参加している。また認知症実践者研修の受講終了者が数名おり、現場反映に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の職員との会議を定期的実践しており、その他グループホーム研修会に参加する事で交流ができ、意見交換をした事をサービス向上に繋げるよう努めている。	同法人の職員との会議を定期的実践しており、その他グループホーム研修会に参加する事で交流ができ、意見交換をした事をサービス向上に繋げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には特にコミュニケーションの機会を多く持つことで関係づくりに努め、本人の要望等を確認しケアプランにも反映させている。	入居時には特にコミュニケーションの機会を多く持つことで関係づくりに努め、本人の要望等を確認しケアプランにも反映させている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居され間もない場合、連絡を密に取りながら要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。	入居され間もない場合、連絡を密に取りながら要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には本人・家族と面談を行い、要望等を確認し、アセスメントを実施した上で必要な支援を見極めている。	入居時には本人・家族と面談を行い、要望等を確認し、アセスメントを実施した上で必要な支援を見極めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、たたみ、食事の後片付け等職員と一緒に生活の中で共に支え合う関係を築いている。	洗濯物干し、たたみ、食事の後片付け等職員と一緒に生活の中で共に支え合う関係を築いている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も支援チームの一員との考えを入居時に家族に説明し、理解して頂いており、家族が行う支援もケアプランに位置づけている。	家族も支援チームの一員との考えを入居時に家族に説明し、理解して頂いており、家族が行う支援もケアプランに位置づけている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、生活歴や人間関係等の把握に努め支援に努めている。コロナ禍で直接会ったりは出来ないが、窓越しでの面会、電話、手紙等で関係が途切れないよう支援を行っている。	馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、生活歴や人間関係等の把握に努め支援に努めている。コロナ禍で直接会ったりは出来ないが、窓越しでの面会、電話、手紙等で関係が途切れないよう支援を行っている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、また担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所等からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が生まれ、コロナ禍前には盆正月の帰宅や馴染みの美容院の利用、また敷地内のデイサービスで友人と会うことも自由であった。受診時に家族との外食や買い物をする方もみられたが、現在は殆どが自粛中である。そのような状況下でも、面会をガラス越しから透明カーテン越しへと緩和し、同じ空間で会話が出来るよう配慮が窺える。電話の取次ぎはいつでも可能であり、携帯電話を持つ方は自由に使用している。誰それに会いたいと希望があれば家族に連絡し、まずは電話してもらおう対応である。これまでの繋がりが途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関係性に配慮をしながら支援に努めている。必要時には職員が介入し、関わり合いを持てる様に努めている。	入居者同士の関係を把握し、関係性に配慮をしながら支援に努めている。必要時には職員が介入し、関わり合いを持てる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等がある時にはフォローを行っている。併設の特別養護老人ホームへの転居ケースが多いが、その場合は本人に面会に行ったり、職員との情報交換を行っている。	契約終了後も相談等がある時にはフォローを行っている。併設の特別養護老人ホームへの転居ケースが多いが、その場合は本人に面会に行ったり、職員との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思い、意向を普段の会話から聞き取り、情報収集を行い、職員間で共有するよう努め、寄り添いながら本人本位の生活が送れるよう支援している。	本人の思い、意向を普段の会話から聞き取り、情報収集を行い、職員間で共有するよう努め、寄り添いながら本人本位の生活が送れるよう支援している。	日々のケアの中でも特に一对一の時、スキンシップを交えながら隣りに座り話し相手をしている時、また入浴中に寛いでいる時などは想いが聞けることが多い。発語の少ない利用者とは問い掛けに選択肢も示している。お気に入りの職員を待つ方もある。聞き取った事は口頭や連絡ノート、また個別記録簿に記し共有を図っている。園芸が好きと分かった利用者には、ただ花類を用意するのではなく、それを楽しむための体力作りも検討・実施されており、ケアプランに活かされた一例である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入居前の担当ケアマネージャー等から生活歴や暮らし方等を聞き取り、把握する事でサービスに反映出来るよう努めている。	本人、家族、入居前の担当ケアマネージャー等から生活歴や暮らし方等を聞き取り、把握する事でサービスに反映出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の意向や状態把握を行いながら支援するよう心がけており、変化や気づきがあれば、職員間で共有するよう努めている。	その日の意向や状態把握を行いながら支援するよう心がけており、変化や気づきがあれば、職員間で共有するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望や思いを組み込んだプランをたて、毎月モニタリングを行っている。また、少しの変化でも主治医と情報を共有し助言を頂いて、現状に即した支援が出来る様になっている。	本人、ご家族の希望や思いを組み込んだプランをたて、毎月モニタリングを行っている。また、少しの変化でも主治医と情報を共有し助言を頂いて、現状に即した支援が出来る様になっている。	ケアプランの見直し時期は、入居して間もない頃は毎月、徐々に落ち着けば6か月毎に行っている。その間に変化があれば臨機応変な対応もある。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や受診で来所の際に聞き取れるよう努めている。現状維持を願う家族は多い。職員は何にでも手を貸すのではなく、また逆に様子を見ながら手助けも行うケアであり、そのバランスを計りながら支援している。残存能力の維持や退院後の体力回復にはこの毎日の積み重ねが功を奏している。ケアプランはかかりつけ医にも見てもらい助言もある。日々の実施状況はパソコンでチェックされ、毎月のモニタリングは利用者毎の担当職員からケアマネージャーを経て確認されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個別記録に記入している。連絡ノートの活用、月1回の勉強会にて情報交換、ケアの周知を行っている。	日々の様子等は個別記録に記入している。連絡ノートの活用、月1回の勉強会にて情報交換、ケアの周知を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特別養護老人ホーム、通所介護事業所等の併設機能を活かし、その時々ニーズに対応出来るよう心がけている。	特別養護老人ホーム、通所介護事業所等の併設機能を活かし、その時々ニーズに対応出来るよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、入居前からの地域資源の把握に努め継続して活用できるように家族に働きかけたり、職員も地域に出掛ける機会(地域行事・ドライブ等)を設けていたがコロナ禍の為最近では実現できてない。	以前は、入居前からの地域資源の把握に努め継続して活用できるように家族に働きかけたり、職員も地域に出掛ける機会(地域行事・ドライブ等)を設けていたがコロナ禍の為最近では実現できてない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続できる ような体制になっているが、入居の 際にご家族より、かかりつけ医変更 の相談があれば、話し合いを行うよ うにしている。	入居前のかかりつけ医を継続できる ような体制になっているが、入居の 際にご家族より、かかりつけ医変更 の相談があれば、話し合いを行うよ うにしている。	利用者が希望するかかりつけ医と なっている。そのため6～7か所の 医療機関が対象となり、中には訪問 診療医もある。馴染みの医師の元 へ長く通う利用者には病歴等を知っ てもらっている安心感がある。それ ぞれのかかりつけ医には緊急時の 対応が難しい所もあり、入居時には 希望する搬送先も確認している。受 診は家族の付き添いが基本であり、 日常のバイタル等を記録した情報 提供表を携行してもらい、スムーズ な診療となるよう支援している。また 職員が付き添う場合の結果報告は 当日中に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	医療連携体制により、週1回看護師 が勤務しており、情報の共有を行っ ている。看護師不在時は24時間の 連絡体制が確保できている。	医療連携体制により、週1回看護師 が勤務しており、情報の共有を行っ ている。看護師不在時は24時間の 連絡体制が確保できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行ってい る。	入院時には介護添書で生活の状況 (精神・身体面等)服薬等の情報を 伝えている。入院中はソーシャル ワーカー、看護師等と連絡を取り合 い情報確認を行っている。また退院 時は入院中の状況、注意事項等の 確認を行うと共に職員間にて情報の 共有をしケアに反映させている。	入院時には介護添書で生活の状況 (精神・身体面等)服薬等の情報を 伝えている。入院中はソーシャル ワーカー、看護師等と連絡を取り合 い情報確認を行っている。また退院 時は入院中の状況、注意事項等の 確認を行うと共に職員間にて情報の 共有をしケアに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、終末期の在り方に関する説明を行っており、必要時には関係者間での話し合いを十分に行うよう努めている。	入居時に重度化した場合、終末期の在り方に関する説明を行っており、必要時には関係者間での話し合いを十分に行うよう努めている。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、特別養護老人ホームの看護師によるエンゼルケアも施されている。今後も希望があれば応えていく用意もある。一旦は決めていても揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事としている。職員が受けている研修にACP(人生会議)があり、人生の最終段階における医療やケアについて、本人や家族と繰り返し話し合う取り組みの事である。安心して納得した最期を迎えてもらえるよう、話し合いには医師の同席もあり、キーパーソンには他の家族への声掛けも促している。医師によるサポート等を説明してもらい、最期を自宅だと決めた家族もある。それぞれの思いに応えながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生のマニュアルを作成し、スムーズに対応出来るよう、定期的に勉強会で確認を行っている。	急変時、事故発生のマニュアルを作成し、スムーズに対応出来るよう、定期的に勉強会で確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練(火災・地震・風水害・原子力)の実施あり。グループホームも定期的に参加し、夜間想定火災訓練を実施するようにしている。	施設内での防災訓練(火災・地震・風水害・原子力)の実施あり。グループホームも定期的に参加し、夜間想定火災訓練を実施するようにしている。	敷地内の法人全体による訓練が年2回あり、その中で一回は消防署の立ち合いもある。火元と想定された場合は利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や通報装置の使い方も承知している。各居室では地震等でドアが塞がれるような家具の配置もない。夜間想定では夜勤者とみなした職員のみで初期対応を試みている。緊急連絡網には地区役員も登録され、伝達確認の訓練では到達時間を計り迅速さも求めている。運営推進会議に於いて非常災害時の対応が質問され、ハザードマップによる危険箇所、災害時の連絡体制、避難先の確認等々が回答されているが、細部の質問にはまだ不備があることが窺える。水や非常食等の備蓄、訓練での反省点や課題の記録は特別養護老人ホーム側で保管されている。	前回の当外部評価で事業所独自の避難訓練が提案され、年2回、夜間を想定した訓練をしようと掲げていたが、コロナ禍も相俟って実施には至っていない。再検討に期待したい。併せて、職員のみで実際の夜間に、その暗さ度合いや避難経路を体験してみる事を勧めていきたい。また火災だけではなく、近年の自然災害は甚大な被害をもたらしていることから、それぞれの事態に応じた誘導と、決められた避難先は火災・自然災害共に対応できるか、家族への周知は済んでいるか等の再検討も期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉かけを行い、人格を尊重した対応を行っている。プライバシーにも充分配慮し支援を行っている。	一人一人に合わせた言葉かけを行い、人格を尊重した対応を行っている。プライバシーにも充分配慮し支援を行っている。	トイレや入浴の場面では最も配慮が求められる。入居時には、介助者は同性の方が良いか等を尋ねており、不安なく慣れてもらえるよう努めている。確認用であってもトイレのドアの開き具合など、日々のケアの中で羞恥心や自尊心には常に気遣いが窺える。職員同士が互いにアドバイスし合える職場環境であることも特長である。また個人情報の取り扱いに関して職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望を尊重し、出来る限り自己決定が出来る様にしている。また表情等からも思いを察する事が出来るよう努めている。	本人の思い、希望を尊重し、出来る限り自己決定が出来る様にしている。また表情等からも思いを察する事が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせるよう努めており、その日、その時の意向を確認しながら支援を行っている。	一人一人のペースに合わせるよう努めており、その日、その時の意向を確認しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等の身だしなみは本人へ確認しながらご自分の意志で選んで頂くよう心がけている。	服装等の身だしなみは本人へ確認しながらご自分の意志で選んで頂くよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみな時間になるよう、献立書きや、献立の紹介をして頂いている。 できる方にはおぼん、オシボリ置き拭き等をして頂いている。	月に一回のお弁当会、手作りおやつ会を開催したり、食事が楽しみな時間になるよう、献立書きや、献立の紹介をして頂いている。 できる方にはおぼん、オシボリ置き拭き等をして頂いている。	献立は法人の管理栄養士が考えているが、毎月の給食会議でのリクエストも可能である。毎食の炊飯と朝食の味噌汁は事業所内で用意され、主菜・副菜・汁物等は特別養護老人ホーム側で調理し届けられる。利用者毎の好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な献立や食材には代替えもある。また毎月のお弁当会は外の業者から届き、いつもと違う食事は楽しみとなっている。出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう介助は最小限に止め、声掛け等で促している。誕生日は同月の方と一緒に祝い、ケーキを用意したり、月1～2回の手作りおやつ会に合わせることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、栄養バランスの取れた献立を提供。食事摂取量は毎日記録している。水分摂取量確保出来るよう努めている。	管理栄養士により、栄養バランスの取れた献立を提供。食事摂取量は毎日記録している。水分摂取量確保出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じて言葉かけや介助等の口腔ケアを行っており、口腔内の清潔保持が図れるよう支援をしている。	一人一人の能力に応じて言葉かけや介助等の口腔ケアを行っており、口腔内の清潔保持が図れるよう支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を行い、一人一人の排泄パターンを把握し声掛けを行っている。プライバシーに配慮しながらトイレでの排泄が出来るよう支援を行っている	排泄記録を行い、一人一人の排泄パターンを把握し声掛けを行っている。プライバシーに配慮しながらトイレでの排泄が出来るよう支援を行っている	排泄に関して利用者の四分の一は自立しているが、任せたままでなく、さり気なく見守っている。各居室にはトイレが設置してあり、利用者は自室に戻り使用している。毎日の記録が活かされ、誘導が功を奏し、入居後に改善した例もある。オムツ・パット類は家族が届けているため、本人の体調面などが直に伝わり、状況は丁寧に説明している。枚数減やサイズダウンによって費用の負担減となる方ばかりではない現実が垣間見える。トイレ内には固定された手すりや可動式手すりがあり、立ち座りを助ける補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分補給、運動に努めている。また便秘傾向の方については主治医に相談・指示を仰ぎ便秘の解消に努めている。	適度な水分補給、運動に努めている。また便秘傾向の方については主治医に相談・指示を仰ぎ便秘の解消に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回午前・午後本人の体調等を観ながら行っている。入浴を嫌がられる方については時間を置いたり、次の日に案内したりしている。	週2～3回午前・午後本人の体調等を観ながら行っている。入浴を嫌がられる方については時間を置いたり、次の日に案内したりしている。	入浴は週2～3回を目安にし、午前か午後かは本人の希望や体調面で決まる。ひとりで、または仲の良い方向士と一緒に、保湿効果や香りにも癒される入浴剤を使い、ゆっくりと入ってもらっている。寛いだ中で想いを話してくれる方もいる。必要があれば特別養護老人ホームの特殊浴槽を利用することも可能である。拒む方には無理強いせず、他のタイミングで誘導している。清拭に替える場合もある。入浴しない日でも下着肌着の交換を行い、清潔保持に努めている。浴室にはベンチタイプのバスボードを備え、安全に浴槽へ浸ることが出来ている。冬場は脱衣場の暖気を浴室へ送りヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、状態に合わせて休憩時間を作っている。就寝時間も生活スタイルに合わせて、安眠できるよう努めている。	本人の体調、状態に合わせて休憩時間を作っている。就寝時間も生活スタイルに合わせて、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書にて内容の把握に努める様にしており、主治医の訪問診療時や病院受診時には状態報告を行うようにしている。	職員は薬の説明書にて内容の把握に努める様にしており、主治医の訪問診療時や病院受診時には状態報告を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生活歴・得意分野・好み・楽しみを把握し残存機能を活かした取り組みを個々に応じて行うよう努めている。	入居者一人一人の生活歴・得意分野・好み・楽しみを把握し残存機能を活かした取り組みを個々に応じて行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍という事もあり外出の機会が減少している。 敷地内での散歩や日光浴で気分転換を図るよう支援をしている。	コロナ禍という事もあり外出の機会が減少している。 敷地内での散歩や日光浴で気分転換を図るよう支援をしている。	コロナ禍であり、感染のリスクを考慮すると高齢者が暮らす事業所としては規制を余儀なくされている。受診時には家族との外出になるが、現状では人出を避けてもらうよう伝えられている。幸い広い敷地であり、周囲には緑と野鳥の声も聞こえる自然がある。天候をみながら日常的に支援している散歩は、日差しを浴びながら五感の刺激にもなっている。介護相談員から他事業所での聞き取り(外の空気を吸いたい等)が紹介され、事業所ではウッドデッキで過ごす機会も増やし自分事として対応している。全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を所持されている方は1名。現在はコロナウイルスの影響で出来ていない。必要な物、欲しいと言われるものは家族に購入してきて頂いている。	現金を所持されている方は現在居られず、必要な物、欲しいと言われるものは家族に購入してきて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や家族から手紙や贈り物が届いた時などは本人の意向や能力に応じて手紙を書いたり、電話をかけられるような支援を行っている。	希望時や家族から手紙や贈り物が届いた時などは本人の意向や能力に応じて手紙を書いたり、電話をかけられるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(わくわく) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うらら) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、利用者と一緒に作成した季節ごとの展示物を掲示している。 施設内の共有空間を快適に過ごして頂ける様に清潔保持にも努めている。	リビングには、利用者と一緒に作成した季節ごとの展示物を掲示している。 施設内の共有空間を快適に過ごして頂ける様に清潔保持にも努めている。	利用者が日中を過ごすリビングには季節ごとの飾り付けがある。桃の節句や端午の節句、またクリスマスツリーなど、その時期ならではの人形も飾られる。利用者の動線上に行動を妨げる物はない。騒音もなく、光はレースカーテンで調節され、各々が落ち着く場所で好きなように過ごしている。時節柄、換気には注意を払い、24時間換気システムも作動しているが、常時開けておく場所もある。手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。プロによるワックス掛け清掃が年1~2回あり、居室では全ての物を一旦出して行われるため、隅々まできれいになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング(パブリック)廊下(セミパブリック)プライベートゾーンと3つに分けた考え方ができ、一人一人が好きな空間で過ごせるような環境づくりを行っている。	リビング(パブリックゾーン)と東西には談話室(セミパブリックゾーン)があり、一人一人が好きな空間で過ごせるような環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持って来て頂き、本人が安心して生活できるように配慮している。 居室内の配置も本人と相談しながら心地よく過ごせるよう配慮している。	使い慣れたものを持って来て頂き、本人が安心して生活できるように配慮している。 居室内の配置も本人と相談しながら心地よく過ごせるよう配慮している。	居室にはトイレや洗面台、クローゼットが設えてあり、整理ダンスも備品としてある。収納場所があることで四季分の衣類や寝具を保管する方も多い。テレビなどいつも使っている物を持ち込んでもらい、火気等の危険物以外に制限はない。配置や飾り付けは本人と話しながらい、居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。家庭と同じである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴槽には手すりがついていて安全に生活できるようになっている。	建物内はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴槽には手すりがついていて安全に生活できるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○		1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない